

学校法人 青山学院  
2020年度 事業計画書



*Aoyama Gakuin* since 1874

## 目次

「青山学院・新経営宣言」の概要	2
「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」の概要	3

### 各設置学校及び学院の事業計画

I. 国際戦略発展のための AOYAMA VISION 「4 Challenges」	4
1. 世界と未来を拓く教育	4
2. 世界をリードする研究	8
3. 世界が求める社会貢献	10
4. 世界に誇る知的インフラ	11
II. 新経営宣言の実現	13
1. 万代基金の設立による財政基盤の充実・整備	13
III. その他	14

## はじめに

---

AOYAMA VISION 策定から 5 年の節目を迎えた 2019 年 11 月、青山学院創立 145 周年記念としてリーフレット『AOYAMA VISION「これまで」と「これから」』を発行しました。AOYAMA VISION の 5 年間の実績を振り返るとともに、今後の 5 年間とその先も見据えた展望を示した内容で、青山学院のこれからの針路を学院全体で共有し再確認するものとなりました。

2017 年に発表した「青山学院・新経営宣言」の経営スローガン “Be the Difference” も、教職員間のみならず幅広い学院関係者に浸透し、支援・共感の輪が広がりを見せています。今後も、より良い教育・研究を支える確固たる財政基盤の構築を推し進めてまいります。

「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というビジョンの実現に向けた各設置学校の教育・研究等の取り組みと、それらを支える学院の取り組みを、本事業計画書にまとめましたのでご覧ください。

## 「青山学院・新経営宣言」 ～Be the Difference～

「青山学院・新経営宣言」は、少子化、学校間競争の激化、グローバル化といった学校を取り巻く環境の変化に対応するための経営戦略の基本フレームであり、経営発展モデル構想を示したものです。そして、「Be the Difference」は、「わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています」（新約聖書 ローマの信徒への手紙 第12章6節）と「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから」「その賜物を生かして互いに仕えなさい」（新約聖書ペトロの手紙（一）第4章10節）とから導かれた経営スローガンです。

この経営スローガンは、「地の塩、世の光」というスクール・モットーとともに青山学院を支える価値観であり、学院に係わる一人ひとりの個性や各設置学校の独自性といった多様な価値を尊重し、幼稚園から大学院までを擁する総合学園として、時代と社会が求める世界に羽ばたくサーバント・リーダーの育成を目指すものです。

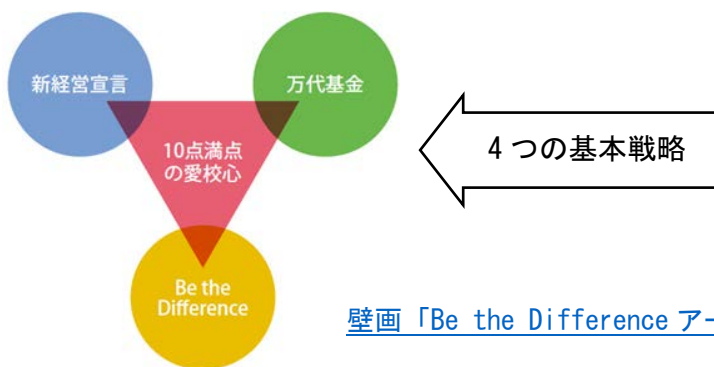
より良い教育・研究を実践していくには学院の財政基盤の安定が欠かせません。志ある若者の経済支援に心を砕いた万代順四郎氏<sup>\*1</sup>の遺志を受け継いで、奨学金や質の高い教育・研究を行うための資金を充実させるため、万代氏の名前を冠した「万代基金<sup>\*2</sup>」を設立しました。本基金の目標金額は、1,000億円です。

この「万代基金」を支えるのは、校友、在校生、保護者等の青山学院に係わる全ての方の愛校心です。これらの方々から「10点満点の愛校心<sup>\*3</sup>」の評価を頂くに値する、魅力あふれる学院として、青山学院はこれからも成長・発展を続けます。

# Bethe Difference<sup>®</sup>

*Each of us can make the world a better place*

“世界は一人ひとりの力で変えられる”



[壁画「Be the Difference アート」はこちら](#)

- \*1) 青山学院高等科卒業。三井銀行取締役会長、帝国銀行取締役頭取などを務め、戦後はソニー株式会社創立期の取締役会長や日本経済団体連合会常任理事として活躍した。青山学院では理事長・校友会会長などを歴任。
- \*2) 青山学院発展のために、主に万代氏からいただいたご寄付をもとに発足した「万代奨学金」を充実・増強すべく「万代基金」として再組成したもの。給付型奨学金の充実と教育・研究の質的向上を最重要課題としている。(II-1 参照)
- \*3) 青山学院に係わる方々へのブランドロイヤルティ（愛校心）調査の指標は、10点をもって満点としている。

## 「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」～青山学院 150 年への挑戦～

2017 年 11 月に発表した「AOYAMA VISION パワーアップ宣言」は、2014 年に策定した AOYAMA VISION の「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というビジョンはそのままに、150 周年に向けて挑戦する学院の姿勢を示した「4 Challenges」の柱立てに再構成したものです。根底にあるグローバル化推進を継続しつつ、「世界の AGU」を目標に掲げる大学の Action を主軸に、ビジョン実現に向けた取り組みを実行しています。ビジョン策定から 5 年の節目を迎えた 2019 年には、「これまで」の実績の振り返りと、今後 5 年間とその先を見据えた「これから」の新たな挑戦や拡充していく取り組みを掲げ、各設置学校が目指す教育・研究、学校像を提示しました。

### Vision 2014-2024

## すべての人と社会のために 未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、  
その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

青山学院が育むサーバント・リーダーは、

リベラルアーツ・  
深い専門知識

他者を敬い  
違いを受け入れる心

人と社会に  
仕える行い

Sincerity  
Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

## AOYAMA VISION 実現の強い意志を「4 Challenges」に込めて

AOYAMA VISION は、150 周年への更なる飛躍を目指した「青山学院の挑戦」の表明です。

学院の基本使命である「教育」と「研究」、その成果を活かした「社会貢献」、快適かつ最先端の「知的空間の創出」。

これら 4 つを挑戦の柱に据え、「世界」に羽ばたくサーバント・リーダーを育成するべく、数々の Action を展開していきます。

世界と未来を拓く教育

世界をリードする研究

4

Challenges

世界が求める社会貢献

世界に誇る知的インフラ

### Mission

#### 建学の精神

青山学院の教育は、  
永久にキリスト教の信仰にもとづいて、  
行われる。

#### 教育方針

青山学院の教育は  
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、  
神の前に真実に生き  
真理を謙虚に追求し  
愛と奉仕の精神をもって  
すべての人と社会とに対する責任を  
進んで果たす人間の形成を目的とする。

#### スクール・モットー

地の塩、世の光  
The Salt of the Earth, The Light of the World  
(聖書 マタイによる福音書 第 5 章 13-16 節より)

## 各設置学校及び学院の事業計画

### I. 国際戦略発展のための AOYAMA VISION 「4 Challenges」

昨今の急速なグローバル化や激変する世界情勢の中にあっても、青山学院の使命「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーの育成」を変わらず実践し続けるために、2020年4月に新たな国際戦略の推進体制として国際戦略推進委員会を設置します。法人と各設置学校の代表で構成される委員会では、各設置学校の教育理念・目標を活かしつつ、学院全体としての国際戦略を策定し推進していきます。

#### 1. 世界と未来を拓く教育

##### グローバル・プレゼンスの確立【大学】

###### ・海外大学からのインターン生受入れ

本学の大学院理工学研究科に入学する留学生の受入れ拡大を目的として、理工学部では海外大学からのインターン生を積極的に受け入れ、本学の世界レベルの基礎研究力と理工学部（研究科）の魅力を発信しています。多様な背景を持つ留学生との交流や研究活動は、理工学部の学生にとっても有意義な経験であり、本学のグローバル教育の推進につながっています。2020年度も引き続き、インターン生受入れ拡大や派遣元大学の開拓に取り組み、本制度の更なる活性化を図ります。

###### ・派遣留学生、私費留学生への奨学金の充実

留学生への経済的支援・インセンティブとして奨学金の充実に取り組んでいます。本学では、世界ランキング100位以内のトップレベル大学への派遣留学生と私費外国人留学生の数が近年増加傾向にあり、奨学金制度の充実が留学生数の伸びに大きく貢献していることが結果として表れています。本制度の認知度が向上し、今後受給者の増加が見込まれることから、将来にわたって安定的に奨学金を給付できるよう資金の充実に努め、強固な奨学金制度を構築します。

###### ・国際交流協定校開拓及び開拓活動基盤の整備事業

協定校の更なる充実を図るため、2019年度に引き続き、協定校・候補校を積極的に訪問して関係構築を進めるとともに、北米・アジア・ヨーロッパにおける留学フェアへの参加や英文ウェブサイトの充実等、国際広報を積極的に展開していきます。近年強化してきた北米の大学との協定校留学は、派遣・受入れ双方の留学生数が増加し成果が表れており、今後は東南アジア・南アジア地域における協定校開拓にも注力していきます。2020年度は、協定校を170校まで増やすことを目標とします。

#### ・国際認証 EPAS (EFMD Program Accreditation System) の取得

国際マネジメント研究科では、国際ランキングの向上、トップクラスの海外ビジネススクールとの強固なネットワーク構築、世界各国からの留学生受入れ増加等を目的として、国際認証 EPAS\* の取得を目指しています。昨年度の事前審査を経て、2020年度は本審査対象項目の体制構築や Self-Assessment Report (自己点検報告書) の作成、カリキュラム改定、内規の整備等に取り組みます。本研究科が日本におけるトップビジネススクールとして、グローバル人材を育成する教育・研究組織であることを世界に証明し、本学のグローバル・プレゼンスを高めていきます。

\*)世界トップビジネススクールの認証機関である The European Foundation for Management Development(EFMD)が発行する国際認証

### 多様化する教育ニーズへの対応【大学】

#### ・社会人講座「青山アカデメイア」

開設から 2 年が経過した社会人向け教育プログラム「青山アカデメイア」は、実践的語学講座等の独自講座の増設や、東京外国語大学との連携講座(司法通訳養成講座)を履修証明プログラムとして運用するなど、内容の充実を図っています。2020年度には、リカレント教育センターを中心とする新体制によって、講座の充実や広報戦略を更に強化し、多様なニーズに応える本学ならではのリカレント教育を展開していきます。

#### ・スポーツを通じて社会に貢献する人材やソリューションを提供する学内体制の構築

本学の「スポーツキャリアプログラム」では、超高齢社会の日本における健康福祉やコミュニティ形成、大学アスリートの多様なセカンドキャリア創出等の課題解決にスポーツの側面からアプローチし、スポーツを通じて社会に貢献する人材の育成に取り組んでいます。2020年度は、教育プログラムの更なる充実を進めるとともに、センターの開設を目指します。また、学内外を問わず参加可能な「青トレコンディショニング\*」や「青学ボディメイクヨガ\*」等のイベント企画を実施し、地域・社会連携にも注力していきます。

\*)小中学生を対象に、青山学院大学体育会陸上競技部長距離ブロックが実践しているトレーニング・コンディショニング方法を紹介するプログラム

\*)初心者も安心して行えるヨガ導入のための青学オリジナルプログラム

## **ライフプランを見据えた就職支援強化【大学】**

### **海外インターンシップ推進事業**

世界を舞台に活躍することを目指す学生のキャリア支援として、海外インターンシップを推進しています。2020年度は、単位認定の対象となるプログラムとして、昨年度に試験的に実施したロスアンゼルス地域でのプログラムを新たに追加し、オーストラリアと米国の2カ国4地域において実施する予定です。また、学生の多様なニーズに応えるため、参加者からのフィードバックを基にした既存プログラムの見直しや新規プログラムの開拓、広報活動の拡充に継続して取り組みます。

## **ICT 教育環境整備・タブレット端末機器導入【高等部】**

2021年度新入生・2年生を対象に、生徒一人につき一台のタブレット端末を導入し、段階的な実施により2023年度には全校での導入を目指しています。既に先行して全教員にタブレット端末を配付しており、2020年度は、Googleの教育支援プログラムである「G Suite for Education」の各ツールを活用した教材作成やホームルーム活動の整備を実施していきます。また、教員、生徒がスムーズにICT機器を利用できるように、補助スタッフが常駐するICTステーション設置の準備を進めています。

## **ICTの活用と教科センター方式による教育の展開【中等部】**

中等部が導入した「教科センター型教室」では、教科の特徴を備えた教育機器を整備した専用教室や、主体的な学習や生徒の作品展示等が可能なメディアスペースを設けて、ハードとソフトの両面から生徒の興味・関心を引き出し、学力向上を図る教育を行っています。全ての建て替え工事が終了した2020年度からは、各教科のICTの活用、メディアスペースの利用方法を共有し、生徒アンケートの結果を踏まえて、より有効的な学習環境を検討します。また、タブレットを利用した授業の研究、LMS（Learning Management System）の活用、生徒一人につき一台のタブレット端末導入についても初等部、高等部と情報を共有しながら進めていきます。

## **Own Device 化に向けた取り組み【初等部】**

初等部におけるOwn Device化（児童一人につき一台のタブレット端末導入）に向けて、児童へのタブレット端末導入を段階的に実施し、タブレット端末を活用した授業の更なる展開とその効果の検証に取り組みます。これからのグローバル・情報化社会に生きる児童たちに必要なスキルの取得を、ICT教育の面から支援していきます。

### **「信頼・喜び・感謝」の気持ちを育む幼児教育【幼稚園】**

幼稚園では、神様から愛されている子どもたち一人ひとりの存在が大切にされながら、多様性を認め合い、思いやりをもって他者に仕える心を育てる園生活を目指しています。礼拝を大切に、友だちや保育者と共に過ごす“遊び”を中心とした毎日を通して「信頼・喜び・感謝」の気持ちを育みます。2020年度は、子どもたちが神様はどの国の人のごとも愛しておられることを知り、平和について考えていくことを保育の中で計画しています。絵本や、異文化を背景に持つ方との交流により他国の文化や言語に触れていきます。貧困や紛争の中にある方たちのことを、実際にその現実を知る方から聴き、祈りに覚えていくことも計画しています。

### **自校史教育の推進【学院】**

青山学院の歴史は、人と社会に貢献し、弛まぬ奉仕を続けてきたサーバント・リーダーたちの歴史でもあります。学院創立 150 周年に向けた年史編纂作業等を通じて、学院の歴史と、それを伝える史資料の重要性を再認識し、各設置学校で展開される自校史教育に活かすことでサーバント・リーダー育成を推進していきます。

### **学校間連携の強化【学院】**

設置学校においては、大学生が中等部生に勉強を教える「スタディールーム」、大学の外国人留学生に高等部生が都内を紹介する「アテンドツアー」、初等部生と幼稚園児が共に学ぶ「一緒に遊ぼう会」等、学校の枠を超えた在校生の連携が図られ、絆を育んでいます。また、大学では“卒業のない大学”として社会人向け教育プログラムを提供する「青山アカデミア」の更なる充実が図られ、校友や地域の方々との連携も強化しています。「人生 100 年時代」において、幼稚園から大学・大学院を擁する本学院だからこそ展開できる「青山学院の“人生一貫教育”」を推進し、一貫校としての特性を活かした施策を打ち出していきます。

### **校友と学院・在校生による連携強化【学院】**

校友による在校生へのキャリア教育や就職活動支援、各学校行事や在校生のスポーツ・文化活動への支援等、様々な場面において校友と在校生との交流が展開されています。校友会の Facebook は、校友同士のコミュニケーションツールのみならず、在校生の活躍や学内イベント等の情報発信の場として学院広報ツールの役割も期待されます。今後も校友会と学院の連携を一層強化し、校友会の活性化と学院の発展につなげていきます。



## キリスト教文化発信の企画の実施【学院】

キリスト教文化の教育・研究の発展に資することを目的として、キリスト教絵画や日本のクリスチャン画家に焦点を当てた行事を企画・実施します。また、31回目を迎える在校生による美術展「おーる あおやま あーと てん」の開催もサポートします。諸行事を通して、キリスト教美術の教育的意義を学内外に発信します。

## 2. 世界をリードする研究

### 先端研究への挑戦と次世代研究者の育成【大学】

#### ・先進ナノ構造、局所組成解析・分析システム

教育・研究の活性化、産業界や地域との連携強化を目的として、2003年4月に設置した理工学部附置機器分析センターは、理工学部内の研究や他機関との共同研究等様々な場面で利用されてきました。今後、先導的な研究成果の量産拠点へとステップアップを図るため、2018年度に導入した最新鋭のFIB装置や2020年度に新たに運用する最新透過電子顕微鏡等を含む「先進ナノ構造、局所組成解析・分析システム」を導入し、研究競争力の更なる向上を目指します。

#### ・AI（人工知能）研究拠点の形成

学内におけるAI研究の連携強化とAI分野における本学のプレゼンス向上のため、2018年度、理工学部附置先端情報技術研究センター（CAIR）にAI研究拠点を発足しました。発足3年目となる2020年度は、大学院生を含む若手AI研究者の育成と産学連携プロジェクトの推進を重点課題として、AI関連技術の各種応用分野への活用を促進する「AI技術応用支援プロジェクト」の立ち上げや、これまでに整備した研究設備の利用環境改善に取り組めます。これらの活動により、多様な分野の研究者・企業との連携を強化し、更なる外部資金獲得の活性化につなげます。

#### ・データサイエンティスト育成プログラムの確立

大学理工学研究科では、統計や機械学習等の技術を駆使し、データから新たな価値を創出するデータサイエンティストの育成に取り組んでいます。2020年度は、2019年度に開始した理工学研究科生対象「データサイエンティスト育成プログラム」の演習科目の内容改善に加え、後期に実施するインターンシップ及びPBL（Problem Based Learning）の協力企業・地方自治体の拡充や、社会人向けデータサイエンス講座の開設を進めます。

#### ・生命システムの動態計測と複雑系解析における革新的基盤形成

理工学部化学・生命科学科の教員を中心に、細胞内環境の化学計測と複雑系解析を取り扱う研究基盤の構築を目的とした研究活動を実施することで、健康な長寿社会の実現、食の安全、環境問題の克服等、人類を取り巻く諸問題の解決に寄与します。2020年度は、研究活動を一層強化するとともに、国内外の学会発表や国際誌への論文投稿も積極的に実施して研究成果を広く発信します。将来的には、研究基盤の形成を目的とした「ライフサイエンス研究センター（仮称）」を設立し、世界最高水準の研究を目指し、若手の人材育成にも積極的に取り組みます。

#### グローバル・プレゼンスの確立【大学】

##### ・フォルジャー・ライブラリーとの協定に基づく、ミランダ・プラットフォームを利用した稀観本のデジタルイメージ化

本学は、フォルジャー・シェイクスピア・ライブラリー\*が進めるミランダプロジェクト（各地の稀観本のデジタル化）に参加しています。本学所蔵の稀観本4冊をオンライン上で世界に無償公開することで、研究及び社会の発展に貢献します。2020年度は、画像の公開に向けたプロジェクトの進行に加え、本プロジェクトの紹介と稀観本のデジタル化について啓蒙するイベントを開催し、大学ホームページやパンフレット等での積極的な広報活動を行います。また、本学院のコレクション公開を推進するため、フォルジャー・シェイクスピア・ライブラリーとの連携を一層強化します。

\*）フォルジャー・シェイクスピア・ライブラリー（Folger Shakespeare Library）。  
シェイクスピア関係及び初期近代印刷本の蔵書で有名なアメリカの図書館。

##### ・本学のSDGs（国連が採択した「持続可能な開発目標」）に対する研究強化への取り組み

2015年、国際社会が持続可能な世界を目指すために、国連は「持続可能な開発目標」（SDGs）を採択しました。本学では、SDGsを重点テーマとする研究を支援する助成制度を実施しています。採択案件の研究内容を紹介する特設ウェブサイトの公開や研究報告書の作成等、学内外に向けた情報発信にも着実に取り組むことで、国際的に意義のある研究を推進する「世界のAGU」としての認知度向上につなげます。

### **ジェンダー研究所の設置・運営と大学への移管準備【女子短期大学】**

2020年4月、女子短期大学における女子教育の伝統を継承し、今の時代に発展させる機関として、総合文化研究所内に「ジェンダー研究所」を開設します。ここでは、青山学院における女子教育の意義の検証並びにジェンダー平等・性の多様性に関する教育・研究事業を展開していきます。また、各種事業の推進と並行して、同研究所を大学に移管する準備を進め、2021年度からは大学附置の「スーンメーカー\*記念ジェンダー研究センター」として、教育・研究活動を継続していく予定です。

\*) ドーラ・E・スーンメーカー。メソジスト監督派教会婦人海外伝道局が日本に派遣した最初の女性宣教師。1874年11月16日に青山学院の源流である3つの学校のうち、最も古い「女子小学校」を麻布に開校した。

## **3. 世界が求める社会貢献**

### **ボランティアからサービス・ラーニングへの展開【学院】**

#### **サービス・ラーニングの推進【学院・大学】**

サービス・ラーニングはAOYAMA VISION に掲げる「サーバント・リーダー育成」の要諦となる教育活動です。幼稚園から大学院までを擁する本学院ならではの「一貫教育を活かした青山学院らしいサービス・ラーニングを展開していきます。2020年度にはボランティアセンターを発展させて、青山学院全体のボランティア活動とサービス・ラーニングを横断的に支援する「シビックエンゲージメントセンター」開設のための基盤を整備し、設置学校間の連携や、サービス・ラーニングの科目展開を推し進めます。ボランティア及びサービス・ラーニングの実践から、園児、児童、生徒、学生及び教職員が主体的に社会貢献活動を行い、学問領域の枠にとらわれない知識等の習得を通して自分の使命を見出し、進んで人と社会のために仕える「サーバント・リーダー」として成長することを支援します。

### **地域・社会との連携【各設置学校・学院】**

#### **チャットルーム改革推進【大学】**

チャットルームは、大学に在籍する留学生がチャットリーダーとなり、外国語によるコミュニケーションを通じて国際交流ができる場です。児童、生徒、学生の学齢やレベルにあわせた多様なセッションを開催して国際交流や異文化交流の機会を提供することで、学院全体における国際交流の活動を活性化し、意識を高めています。更に校友、渋谷区、町田市、相模原市の地域住民等の幅広い層を対象としたセッションを開催し、青山学院と社会をつなぐ場として、地域貢献・社会貢献の重要な役割を担っています。海外協定校インターンシップ生による国際交流・英語学習支援を通じて各設置学校における異文化と触れ合う機会が拡大されたように、新たなアプローチを積極的に取り入れてチャットルームを活性化し、キャンパスのグローバル化を推進します。

#### 【各設置学校におけるサービス・ラーニングに係る取り組み例】

学院	●幼稚園から大学まで各教育課程を横断するフィリピン訪問プログラム
大学	●地方自治体との各種協定に基づくボランティア活動、地域振興支援 ●ボランティアセンターによる各種活動（渋谷区におけるこどもテーブル拠点事業、フィリピン等における国際協力、東北地方・熊本県における復興支援活動、ボラサポ制度の運用）及びサービス・ラーニングに関する科目への支援 ●サークル、ゼミ単位での国内外における各種貢献活動 ●青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ」「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」
女子短期大学	●宮古市における児童・生徒に対する教育支援活動等被災地支援ボランティア活動
高等部	●東日本大震災の被災地の学校との交流 ●横浜寿町での炊き出し等支援 ●東ティモール・スタディ・ツアー（ケーススタディと現地調査） ●知的障害者支援施設「えびす青年教室」への訪問、交流
中等部	●養護老人ホームでの奉仕活動 ●震災被災者支援募金活動 ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
初等部	●滋賀県にある止揚学園への短期留学 ●社会福祉法人鎌倉薫風学園ラファエル会・日本聾話学校への訪問 ●日本キリスト教海外医療協力会支援プログラム（使用済み切手の回収） ●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
幼稚園	●チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援

#### 4. 世界に誇る知的インフラ

##### 学生募集停止に伴う段階的移行期間における法人・大学・女子短期大学による施設の有効利用【女子短期大学】

2019年度からの学生募集停止に伴い、女子短期大学の校地及び施設の有効利用に資するため、法人・大学・女子短期大学の三者が協力して、最適な利用計画を立てます。これにより、大学の新図書館建築に伴う代替施設としての利用や、法人におけるキャンパス再開発計画の推進に寄与します。

##### 新教学システムの導入【高等部】

生徒指導の充実や教員の作業効率化を目的として、2021年4月より新教学システムの稼働を目指し、各種準備を進めています。2020年度は、新システムの要件定義及び開発作業着手のため、新プログラムの実装やテスト作業、旧システムからの移行作業を行います。

### **新教務システムの導入【中等部】**

生徒情報の共有や事務処理の簡素化による教員の業務改善を図るため、新たな教務システムを導入します。2021年度からのシステム構築及びデータ移行の実施に向けて、2020年度は、新教学システムの導入作業を先行して進める高等部と連携しながら、システムの内容を検討します。

### **新しい学びの実現に向けた初等部教育基盤のクラウド化【初等部】**

初等部では、これまでに構築してきた ICT 学習インフラに加えて、クラウド環境を新たに整備することで、学校教育と家庭学習の接続をスムーズにし、児童の主体性を引き出す新たな学びのスタイルを確立します。教育コンテンツのクラウド化と並行して、保護者向けにタイムリーな情報発信を実現する新たなクラウド型教育基盤「初等部ポータル」を開設し、学校と保護者の連携をより強化します。また、クラウド化によって、教員間での情報共有が容易となり、教員の働き方改革促進にもつながります。

### **キャンパス再開発【法人・各設置学校】**

#### **大学新図書館建築計画【法人・大学】**

キャンパス生活の“ホーム”として学生が集う仕組みと、青山学院ならではの先進的なサービスを備え、学生のニーズと社会の変化にも対応できる「学生が学び、育つ図書館」を実現します。2024年4月の全館オープンに向けて、2020年度はインフラ盛替・準備工事や既存校舎解体工事を行います。

#### **新園舎の建築【法人・幼稚園】**

キャンパス再開発の一環として、幼稚園が守り続けてきた保育の特徴を活かした新しい園舎建築計画を進めています。2019年度に引き続き、他園の見学や情報収集を実施するとともに、新園舎の基本的な理念を取りまとめ、具体的な検討に向けた現状把握・課題抽出・諸要件整理を開始します。

### **資料センター所蔵資料検索システムの構築【法人】**

学内外の研究者にとっての利便性向上に資するため、資料センター所蔵資料の検索システムを新たに導入します。2021年度からの段階的なウェブ公開に向けて、2020年度は資料の現物照合や、使用頻度の高い記事索引データを対象とした新システムへの取り込み作業を行います。

## **「自ら学ぶ力」を育む環境づくり【学院】**

### **Aoyama Global Passport System の構築【学院・各設置学校】**

幼児教育から高等教育までの系統的な学びの中で、在学生一人ひとりについて、サービス・ラーニングや留学を含む正課外の学びを記録し、自らの学びの履歴を振り返り主体的な学びをデザインする力を育む仕組みの構築を目指し検討を進めています。本計画の最終年度となる 2020 年度は、Aoyama Global Passport System 全体像の可視化に取り組みます。

## **学院教育環境としての次期教育研究システムの計画の立案と実行【学院・大学】**

多様化する教育・学習活動に対応するため、2021 年度より次期教育研究システムのサービス提供を開始します。2020 年度は、昨年度に作成した更改計画書の「多様性に対応した教育研究環境の構築」、「インタラクションを促進する教育研究環境の構築」、「開かれた教育研究環境の構築」のポリシーに基づいたシステム更改作業や、学内利用者向けの利用案内やマニュアル、ウェブページの整備及び周知活動を行います。

## **II. 新経営宣言の実現**

### **1. 万代基金の設立による財政基盤の充実・整備【法人】**

「青山学院・新経営宣言」の基本戦略の一つである「万代基金」は、「フィナンシャル・エイド（給付型奨学金）」と「教育研究資金（2024 年度までは AOYAMA VISION 実現に向けた教育研究の資金）」の充実を目的として 2018 年に創設し、現在多くの学院関係者に認知され支援の輪が広がっています。より磐石な財政基盤を構築するため、2020 年 4 月には、青山学院万代基金規則のもとに新たに万代基金委員会を設置し、基金の管理・運用や事業の展開等を行うための運営体制や諸規則の整備に着手します。新体制のもと、2020 年度も、継続寄付者への情報発信・関係構築を密にしながら、新規寄付者の開拓にも注力して支援者の増加を目指します。経済的理由により青山学院での学びを断念する学生・生徒等を出さないために、また各設置学校における教育・研究の質的向上を財政面から支えるために、安定的な基金の運用に取り組みます。

### Ⅲ. その他

#### **学院の個性を発揮することのできるサーバント・リーダーとしての職員の育成【法人】**

AOYAMA VISION に掲げる「サーバント・リーダーの育成」を実現するためには、サポートとして携わる職員自らが「サーバント・リーダー」に求められる素養を身に付けることが重要です。「職員のサーバント・リーダー育成プログラム」研修や日々の業務、特別礼拝の参加等を通じて「サーバント・リーダー」としての意識付けをしています。これに加えて、学校職員として必要な技能を「組織を活性化する職員育成プログラム」をはじめとした様々な研修プログラムで修得していきます。これらのプログラムでは、「仕事の効率性を高める企画力・発想力」等、常に新しいテーマを取り入れ、学校職員に求められる知識やスキル習得の機会を提供しています。また、2019年度は「組織を活性化する職員育成プログラム」の中で、大学のSD（スタッフ・ディベロップメント）活動と連携し「大学 SD 該当プログラム」として学校運営に関わる研修を開催しました。2020年度も引き続きSDの取り組みに求められる、大学職員の資質向上に必要な研修プログラムの構築を進めていきます。

#### **学校の国際化を支える職員のグローバル人材の育成【法人】**

青山学院では、急速に進む社会のグローバル化に対応するため、学院全体の国際化に寄与する人材の育成に取り組んでいます。語学堪能な人材の積極的な採用や語学力を考慮した人員配置により、職場のグローバル化を図るとともに、周りの職員の意識向上にもつなげています。2020年度は海外大学への出向研修や語学試験受験料補助制度を継続して実施するとともに、職員の自発的なグローバルセンス向上の支援として、海外英語研修への補助制度を新たに設定するなど、多様なプログラムを開催します。

#### **記念式典「青山学院女子短期大学 70年の歩みを感謝する集い」実施【女子短期大学】**

女子短期大学は、2020年に創立70周年を迎えます。その記念事業として、70年の歩みを振り返る感謝の集いを企画・実施します。礼拝やメモリアル動画の上映、卒業生や元教員による思い出を語る企画等を通して、先人たちが作り上げた女子短期大学の歴史を顧み、感謝の思いを共有する機会とします。

### **中等部創立 75 周年式典及び記念誌の発行【中等部】**

2022 年に創立 75 周年を迎える中等部は、75 年の歩みの中で、変わることなくキリスト教に基づく教育を目指し、競争ではなく協力し合う精神を大切にしてきました。一方で、時代に即したより良い教育を追求して常に改革にも取り組んでいます。2017 年より教科センター方式を導入して、教室で先生を待つ授業から生徒自ら専用教室に「向かう」授業へと授業スタイルの転換を行い、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てています。2022 年に向けて、この 75 年の歩みを振り返ることで、受け継がれてきたものの大切さを再認識するとともに、更なる未来を見据えた新たな改革につながる記念事業となるよう、記念式典及び記念誌の発行準備を進めています。

### **ランチョン 50 周年企画『パンと水Ⅱ』（仮称）の発行【初等部】**

生活の全てを教育の場とする初等部では、「心のこもった、手作りの温かくおいしい食事」を生きた教材としてとらえて、心と体を育てる「食育（給食）」を大切にしています。児童は、教室給食や 2 学年一緒にいただく食堂給食を通して、食事の準備・片付けの仕方や食卓での人との交わり方を学びます。また、学年ごとに交替でいただく特別給食の木曜ランチョンでは、テーブルマナーやお客様をおもてなしする心を身に付けていきます。1970 年から始まった木曜ランチョンが 2020 年に 50 周年を迎えるのを記念して、初等部の食育を紹介する本『パンと水』（1986 年初版）を、近年の新たな取り組みも加えて『パンと水Ⅱ』（仮称）に取りまとめて発行し、食育の重要性を伝えていきます。

### **青山学院幼稚園創立 60 周年記念事業の実施【幼稚園】**

青山学院の幼児教育は、1937 年に別法人「青山学院緑岡幼稚園」の設立より始まりましたが、東京大空襲で全焼したことにより一時廃園となりました。その後 1961 年に当時の大木金次郎院長のもと現在の「青山学院幼稚園」が設立されてから、2020 年で創立 60 周年を迎えます。在園児や卒園生等と共に創立からの歩みを振り返り感謝する場として、記念礼拝をはじめとする周年記念事業を企画し、青山学院幼稚園同窓会いとすぎの会・青山学院緑岡幼稚園同窓会と連携して実施します。

### **『青山学院一五〇年史』編纂【学院】**

青山学院創立 150 周年の記念事業として『青山学院一五〇年史』の編纂を進めています。青山学院が歩んできた歴史を資料により跡づけて、学院関係者のみならず広く社会へ向けて公開します。2014 年から編纂を開始し、2019 年 3 月に 1 冊目となる資料編第Ⅰ巻（明治初年から昭和の戦前期まで）を刊行しました。2020 年度はこれに続けて資料編第Ⅱ巻（戦後から今日まで）を刊行するとともに、150 周年を迎える 2024 年の創立記念日までに順次刊行する通史編第Ⅰ巻（戦前編）、第Ⅱ巻（戦後編）、別冊（写真や図版）の編纂準備や作業に取り組めます。



〈補足事項〉 P.4 から P.15 の表記について

1. 【学院】【法人】

法人執行部及び本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に関わる計画を【学院】、「経営・管理」に関わる計画を【法人】と表記しています。

2. 【大学】

大学を構成する各部署・附置機関、大学院、専門職大学院が行う事業計画については、すべて【大学】と表記しています。

本書に掲載している計画は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、内容を変更あるいは中止することがあります。

地の塩、世の光  
*The Salt of the Earth, The Light of the World*  
【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院 2020 年度事業計画書  
2020 年 3 月 26 日 理事会承認 (2020 年 4 月発行)

---

学校法人 青山学院 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25  
〈問い合わせ先〉 総合企画部 Tel.03-3409-6384  
〈学院ウェブサイト〉 <http://www.aoyamagakuin.jp/>